京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

月曜日及大祭日の翌日は休刊
發行所 京城新報社
仁川支局
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

雑録

●米國研究（四）

横濱正金銀行副頭取 井上準之助君

益々盛談に移りますが、もう一つ私が感じたことを申しますと、亞米利加と云ふ國は人を貴ぶ、人の力言ひ換ゆれば人の腕を貴ぶと云ふことは日本から往きますと最も感ぜられる、御承知の通り亞米利加と云ふ國は方々から人の集まる場所でありまして一年に多い年で百萬人、尠ない年で四十万人の移住民が他國から這入つて來る、一方から云ひますと世界の全體の寄り集會所、世界の人才の集合場所であります、資産もなければ何もない躄が街も世の中に生れて來た以上は何か一仕事して見ようと思ふ元氣のある人間が米國に集まつて來る人は多ひのです、其の代りに世界各國の食詰め者も多くは米國に集まるのです、甚しきものは大罪を免れん爲めに來るものも尠なくないのです併しながら亞米利加に來て居る者を見れば實に日本から見ふと羨しい程立派な人間が多い、立派な人間の居ることは夥しい、皆が皆に良い人間が往くからと云ふ譯でもありますまいが、併ながら亞米利加で良くなる譯もあらうと思ふのであります、それは亞米利加で人を實設して立派な人を崇拜すると云ふ念慮が非常に強い、それで各所に往きまして見ますのに、個人の仕事は別でございますが、苟も、株式會社の仕事になると非常に若い人のみを使つて人材を集めて居る、それで亞米利加に斯う云ふことを云ふことがあります、年を聞かれると非常に厭がる、之は色男を氣取つて持てると云ふ觀念でなくて、實際に人に自分の年を言はれぬことがある、それは何故かならば亞米利加は國が新しいのですから、働ける間働いて、年が行けば、社會より排斥せらるゝから自分は老ひても人に年を言はず、未だ大に用ゆべきを示す必要があるのです、白髮を染めた當年の齊藤實盛を氣取るのです、從つて、亞米利加には恩給制度と云ふものはない、どんな銀行を捜しても恩給制度のある銀行はない、唯最近になりまして會社が發達して鐵道會社、製鋼會社などは株主に特別配當をして居る、それで被使用人等は株主に特別配當をするならば吾々に恩給金を寄越せと云ふのが勞働者の相當な言ひ分であると、依に株主の特別配當の幾分を割ひて恩給金を積立てたるものがある、之れはペンシルバニヤ鐵道會社及合衆國製鋼會社等二三ある耳でありまして普通の會社では恩給金と云ふものはない、働ける間に働く、賃金も十分な賃金をやる、其代り働けなくなつたらまだ自分は働く積りでも誰も雇つて呉れぬ、それだから働ける間に勞働者は大に働けと云ふのである、日本のやうな社會の制度のある所では將來のことから言つても斯の如きことは決して直接に參考にはならんと思ひますが、併ながら亞米利加に於て人のみに重きを置て居るゝ云ふことは日本のやうな國には確に大に考ふ可き事と思ふ（完）

●新領土の舊山河（七）

呉越

▲鴨緑江（六）

◎豐公征韓の一擧、初め疾風の如くして終り何ぞ處女の如く夫れ然かるや、文祿の役、渡韓の兵十五萬、先頭釜山に上陸を始めしは元年四月十三日、清正、行長の京城を陥れしは五月三日、其行程一百十里にして費す日數僅かに二十日、疾き事風の如しとは正に個中の言なるべし、方今一師團（凡二萬人）の兵を上陸せしむるに其狀況極めて良好にして尚三四日乃至一週間を要し行軍は戰線内にありても一日六里乃至八里を越ゆる能はず、征韓軍の行動や神變と云ふべし人事にあらず。

◎行長既にして平壤に入る、次に起るべきは夫れ鴨緑江の會戰か、當然あるべくして逸せられしは此一戰なり、勇猛なる日本軍は遂に江を見ずして歸り事唐太宗の軍と同一なりき、李如松十萬の軍は先んじて江を渉れり、江は新郎を迎へずして依然たる蕃夫を送れり元龜天正の余武は平壤を限りとして南方の山河耳是を見たり。

◎龍頭にして蛇尾に終りし征韓の失敗も確かに後軍の援轄を防止したりき、糧食の不足、外交の拙劣、將又海軍力の微弱、皆此界に於て嘗めし至辛の苦なり、至辛の苦初めて後世其功を收むべし、日清の役日露の戰共に捷れる江畔の大捷は、文祿慶長の勇士猛將の戰仲に來つて戰ひしの所以にあらざるか非歟。

外事一束

△袁世凱意を決して起つ段芝貴以下乾兒を集め軍議を凝らし防寄彰德に集

△官軍司令官の戰報來る大砲の効力偉大隊長を倒し賊軍狼狽潰走すと

△郵傳大臣盛宣懷厚恩を受け私を行ひ大局を誤る永く敍用せずとの上諭出

△京漢鐵道第二軍の輸送を初む漢口九江革軍の聲望大秩序整然たりと云ふ

△獨逸山東巡撫に軍費三百万兩を借し獨政府に千五百萬兩の借款に應じ以て獨逸軍器購入に當てしめ或は漢口の官軍を援けし等列國爲めに登目す

△北京新聞界資政院議員及有志者革黨と政府の間に居中調停の計畫有りと

梁川庄八（やながはしやうはち）

小金井蘆洲演

第二十三回

山城屋伊助は何うなる事かと心配をして、二階の容子を窺つて居りますと、暫て何と話がついたか代官手付の三人の役人が降りて來た、上つて行く時の容子とは違つて大分柔和で 役「山城屋、御話は相判つたから宿札は出して置ても差關はない、永らく御滯在の由だから隨分御叮嚀に致しなさい……」伊「ヘエ……」其儘立歸ていつた、サア猶々判らなくなつた、家中の者に云付て、叮嚀の上に叮嚀にして腫物の樣に大切にして居ると、誠に温順な人で下婢抔が粗忽が有ても決して譴責なぞと云つた事はなし、口をきくにも至て優しく、少しも圭角と云者を出さないから、初めの臆測とは全然違つて、家中旦那樣〳〵とすつかり馴染んで了つた、折にふれては梁川の方から降りて來て 庄「何うも一人と云者は退屈で仕樣がない、食事は家の者と一緒に致さう」なんと云て家内の者と膳を並べて喫初めて、四方山の世間噺をして、滑稽なぞを交へてする者ですから、一同大喜びで居ります、鼓に東金の傍に荒居村と云村があつて其處に飯綱權現の社がありまする、是れは五十六ケ村の鎮守社で、年々八月廿三日が祭禮を執行う、其時には雨天順延で終日祭禮相撲があるのでございます、此相撲が餘程面白いのです、午前は素人相撲で午後は假勝れて居る者が其村を代表して出て、主里見安房守殿の御抱方士が天下泰平相撲を取り勝負に依て席順を定めると五穀生熟豊年萬作の祈願をして、それ濟むと云ふ趣向にした、當日は席爭の相撲めの相撲を取るのです、午前の素人相撲と云のは取組が二十八番、人數は五十六人此五十六人は、五十六ケ村から一人つゝ相撲取が出るのです、相撲取と云つた處で當日だけの相撲取で、平素は皆夫れ〳〵農業を勵んで居る農夫でございます、又何で此素人相撲を取らせるかと云ふと、毎年代官御陣屋へ年貢上納を致す夫が濟むと、代官から村方名主一同を御陣屋へ呼擧げて、悉く御年貢上納相濟み骨折大儀に心得ると云ので、お酒下されの御馳走があるのでございます、其時に五十六ケ村の名主が、乃公の村は彼の村より古く開けて居るとか、乃公の村は五十六ケ村の草創の村であるとか、家柄は彼より宜しいのだとか、イヤ乃公が家には聖徳太子樣が召上つた飯碗がある家でござへまさあ、彼に上席を占められては御先祖樣に濟まねへだ、なんと然うでせう現今のやうに門戸開放人才登庸に成てすらも、未だに華族社會抔には門閥を爭ふて專ら唱へる者がある所謂門地癖と云者が失せない、況や其頭の事ですから無理はない、代官の勢力で誰は上席に着け誰は其下席にと差圖をしては御馳走にならぬに依て差圖も出來ぬ、そこで八月廿三日の飯綱權現の祭禮相撲を幸ひに、村々から力の事で有ますから、各村競て相撲に勝つて乃公の村の名主樣を上席に占めさせたいと云ふ精神から取るのだから、此廿八番相撲は至極面白い、關係のない近郷近在の者迄が樂しみにして、早朝から押掛ると云譯、山城屋伊助は 伊「エー旦那樣明日は荒居村の飯綱權現樣の御祭禮で社内に是〳〵の相撲が厶ざりますが御入來ませんか、私が御案内を致しませう」庄「イヤ夫は大分面白かろう、乃公は相撲は大好きだ村芝居なぞは見たくはないが、相撲は勤の宜いもんで男の見るべき者だ……聞く者は講談に限るのう」伊「早朝に參りませんと却々の人出で見られませんから明朝は暗い内から出掛ませう」庄「ア、然うか本統の力士が取るのは夫れ〳〵規則があつて、却て面白味が薄くていかん、其處へ行くと素人相撲と云者は抱腹絶倒するやうな事がある者だ、乃公も國元に居た時分には隨分江戸の大相撲が興行に參つて、屢々見物に行つた」伊「左樣でございますか」其翌朝は早くから支度をして、伊助が大きな瓢へ酒を入れて先へ立て案内をする、荒居村へ這入て來ると人で埋まるかと思ふ樣な人出角力場へ來て世話人に賴んで棧敷へ掛つて見物をする、圖らずも此相撲に就いて一つの騒動が出來して、梁川庄八義憤發して大勇を揮ふと云ふ一席は明日。



東京電報

▲秋津洲艦公報 廿七日夜軍艦秋津洲の確報によれば廿七日朝官軍は攻勢を取り午前中に江岸停車場を奪ひ午後一時日本租界附近に於て激戰を開始し海軍は陽邏より軍艦四隻を遡航せしめ援護射擊を加へ後に至り巡洋艦既に加はり激戰日沒に及べり革命軍は退却し隊伍を亂して漢陽に敗竄せり官軍は第四鎭主力なり約一師團にて革命軍は五六千なり外國居留地は皆無事なり

▲蘭州兵隊動かず 清國甘肅省蘭州の混成旅團は動員令に接したるも征討に赴くを肯んぜず代表者を北京に送り動員令の取消を請願し若し容れざれば出征するも戰闘に參加せずと決議せりとの報あり

▲伏見若宮御發程 暹羅皇帝戴冠式參列の伏見若宮博恭王殿下同妃殿下には來月十二日午後三時四十分新橋發にて御渡暹の途に上らるゝ筈なり

▲遣英艦香港出發 遣英艦利根鞍馬の兩艦は廿九日香港を發し目下横須賀に向け航行中なり

▲朝鮮關係勅令公布 三十日勅令を以て三十三年法律第十五號同第三十號中第一條より第五條別表にて朝鮮に施行の旨公布せらる

北京特電

▲清國借款成立 清國政府借款問題は佛、白兩國間のシンジケートより九千万法成立し調印せり

▲官軍の活動 官軍は漢口大智門占領後革命軍と交戰を續け水陸相應じ漢陽砲擊中なり

▲瑞徵捕縛せらる 前湖廣總督瑞徵は逃走を企てたるも捕縛せられたる旨上諭發せられたり

▲革命軍占領 大原府は革命軍の占領する所となり鐵道を破壞し革命軍頗る優勢を極めり

▲黄州人心恟々 黄州秩序亂れ目下避難者多く人心爲めに恟々とし頗る混雜を極め居れり

▲鎭江に各地脅迫狀 鎭江よりの報に據れば同地に於ける叛徒は各地の道臺及知縣に脅迫狀を送れりとのことなり

▲岑總督出發上諭 岑四川總督は曩に募集したる二營の外更に八營を募集し度支部より送致し來れる百萬兩を其資金に充て四川に向ふべき旨上諭出でたり

▲濤貝勒と指揮官 清國政府は叛亂猖獗を極め革命軍の勢力侮る可らざるものあるを以て湖北第二軍を編成し既に輸送に着手したるが場合に依りては濤貝勒を指揮官とし禁衛軍出動の準備なり

▲資政院の決議 資政院は[illegible]に於ては救急の策として皇族の職政たるを禁じ滿漢の人材を蒐集し內閣を組織し憲法も亦議會に於て立案すべしと決議したるが是と相應じて大演習後討伐軍第二軍に屬し菊沙に在し居れる第二師團長張紹曾主唱となり十二個條の建言をなし之を用ひざるに於ては兵力を以て目的を遂行すべしと北京政府に迫れり

上海電報

▲漢口恢復の報道 官兵の漢口恢復に關する獨逸側の公報によれば戰闘は二十七日午前七時頃に始まり正午頃に終了したり官軍は停車場附近に在る革命軍に對して前進したるが兩軍の兵數は約二千にして官軍は薩提督の率ゐし軍艦の援助を受け革命軍は全く官軍の擊破する所となり多數の兵士及砲銃を失ひ漢陽に退却したるが尚革命軍の一小隊は鐵道堤防近き外國居留地背後に出で居れり官兵は目下停車場附近に在りて安全に支持し漢口市街の恢復に着手したる爲め午後三時には再び戰闘開始せられたり

▲盛宣懷逃遁說 革黨[illegible]られし盛宣懷は僅かに身を以て逃れ米國公使館の保護に天津に逃れたりとの說傳はる

雜報

●天長節祝擧式序（順） 十一月三日長谷川町南別宅構內に於て擧行さるゝ日鮮人合同大祝賀會の擧式次第は左の如く決定せり 一煙火を合圖に午前十一時開催 二正午來會者著席、三爆竹を合圖に式場へ集合、四開會の辭、五奉祝辭、六君が代奏樂、七一同萬歲唱和 八閉式、九零時三十分爆竹を合圖に酒肴券引換、十模擬店開始、十一餘興（藝妓、妓生の手踊、綱渡り、童舞）十二隨時解散

●總督の開通式臨場 一日新義州に於て擧行の鴨綠江鐵橋開通式に參列の爲め寺內總督、山縣政務總監、上田軍司令官、池田通信局長官、宇佐美內務部長官、明石警務總長、小松總務[illegible]長官、[illegible]局長、秋山[illegible]官、[illegible]兒玉會計局長、中山[illegible]の一行は三十一日午前[illegible]臨時特別列車にて新義州着は卅一日午後六時[illegible]には新義州府廳に投宿すべしと

●寺內總督の歸期 新義州開通式に參列の爲め出張の寺內總督山縣政務總監は來る二日夜南大門驛着の筈なり

●總督と大演習 寺內總督は來る八日當地出發釜山より光濟[illegible]直航し同地より直ちに[illegible]筈なりと

●水雷艇と開通式 旅順鎭守府所屬の第十四艇隊は鴨綠江開橋式に參列の爲め吉田海軍中佐統率し安東縣に入港すべし

●定例長官會議休會 卅一日は定例長官會議日なるも總督始め各部長官等鴨綠江方面出張の爲め開會せず

●土地家屋證明激增 京城府に於ける土地家屋の賣買贈與交換典當所有權の證明申請件數は頃日非常に激增し目下一日平均數十件に上り本年九月末日迄に證明を與へたる件數は實に一萬二千八百八十七件にして之を昨年同期に比すれば九千三百八十八件の增加にして京畿道全府郡の二倍以上なり手數料は九月末日まで[illegible]四圓六十錢の收入あり

▲暴動と朝鮮貿易 ……度支部司稅局調査……

在鮮淸商 淸國暴動の在鮮淸商に及ぼす影響を觀察するに淸國各地殊に上海に於ける暴動の結果は延て在外淸商に紛亂を及ぼし朝鮮に於ても淸商に預金の引出し及び[illegible]けて資金の調達に充て手段を講じ能ふ丈け本店に送金を生じ既に送金高は朝鮮銀行支店世昌洋行ク[illegible]合せ約百萬圓に達せし在鮮淸商は多く上海芝罘の[illegible]を有するものにして朝鮮の淸商は多く上海芝罘の資金を有せず從つて商品を二ヶ月以內の延取引に仕入るゝものなるを以て各本店より仕入代金の[illegible]るに基くのみならず當來上海荷主に對して其の普通金利（年七八分）といふを加へて支拂ひ居りし處今回前述の如く上海の金利暴騰せしに依り淸商は當地方にて低利の資金を借入れ決濟を急ぐことも有力なる原因なりとす

▲暴動と輸出貿易 朝鮮產品の淸國に輸出せらるゝものは北淸及滿洲にあつては米、海產物、人蔘、紙、淸酒、木材等其の主なるものにして對淸輸出額の大部分を占め貿易關係頗る密接なるも中淸及南淸方面に對しては海產物紙其他少額の輸出あるに過ぎず故に暴動の影響比較的小なるべしと雖も之に反し北淸及滿州方面に於ても今後上海に於けるが如き經濟上の影響を蒙むるに至らば對淸輸出貿易は茲に甚大なる打擊を受くるに至るべきを思はしむるも此の如きは未だ今日に於て想像すべからざるのみならず此の方面に於ても米の大部分及淸酒は主として日本軍隊又は在留邦人の需要に屬し人蔘は三井物產會社の手を經て淸國に於ける狀況の如何に拘らず芝罘に仕向けらるべく又た材木は新義州より鴨綠江材を對岸安東縣に輸出するものなるを以て此等は暴動の影響を蒙むること尠少なるべし次に內地移出に及ぼす影響を考ふるに朝鮮產と相並て淸國より內地に輸出せらるゝものは大豆、荏、胡麻子等にして淸國產は專ら北淸及關東州產なるが前述の如く支那銀行の紙幣の流通圓滑ならずして取引に多く正貨を要する狀態繼續せば大豆等の出廻り自然澁滯し內地輸出にも幾分影響を及ぼすべきに依り結局朝鮮農產物の移出に奬勵せらるゝことなるべし（未完）



祝鴨綠江鐵橋開通式

●京畿道苗圃成績 京畿道に於ける本年の苗木は總數七百萬本なるが欅、赤松、栗、等最も多く而して明春山野へ移植すべき苗木は二百八十萬本面積約四百町步にして尙紀念樹栽培訓令に基き各府郡に於て設けたる苗圃苗木は三十萬本にして何れも目下の生育極めて良好なりと云ふ

●京城民會委員會 既報三十日京城民團役所に於て開會せし委員會の案件は例の漢城病院々長問題なるが結局當日は何れとも決定せず多分次回の委員會に於て決定を見るにいたるべしといふ

●鮮人の間島移住 鮮人の間島移住者昨年來非常に增加しつゝありしが頃日移住者減退の傾向にて本年一月以降九月迄に一万九百餘人月平均千二百人內外なりと云ふ

●道路擴張委員會 來る二日午後七時より當會議所樓上に於て市內道路擴張委員會を開會し豫て民團より總督府に請願の道路擴張問題に關し協議すべし

●鮮人市場取引高 京畿道管內に於ける市場は京城外十六ヶ所なるが最近の調査に依れば以上の市場一ヶ年の取引高は農產物八十八萬六千四百四十五圓水產物十三萬九千六百四十圓織物類十九萬四千百三十圓畜類七十二萬四千二百七十九圓其他五十一万九百九十圓合計二百四十六萬五千三百五十圓なり然して全市場の內最も取引高の大なるは京城南大門、東大門の兩市場にして其一ヶ年の取引價格七十五萬三千五百二十二圓なりと云ふ

●商品陳列館開館 豫て農商工部に於て開館の準備に取掛り居たる京城永樂町二丁目元統監府特許局跡の總督府商品陳列場は此の程完成したるを以て愈々十一月一日より每月曜日大祭祝日の翌日及十二月二十九日より翌年一月五日迄の間を除き一般公衆に商品陳列品の觀覽を許すと云ふ

●第二回米穀豫想高 過般來農商工部に於て調查中なりし第二回米穀豫想高は三十一日を以て各道の報告を締切り二日頃右收穫豫想高發表すべしと

●藤田組の鑛山業 藤田組にては江原道及び忠淸北道に五個所の金銀鑛山を所有し居り江原道の鑛山は總計三百二十萬七千二百十坪なるが右は近々中採掘に着手すべしと云ふ

●學資金給與規程 三十一日府令を以て學校生徒學資給與並に卒業後の服務に關する規程發布されたり

●道廳舍費計上 總督府に於て明年度より繼續事業として咸鏡北道外數道の廳舍新築及修繕費明年度豫算に計上したりと

●高利貸取締法の制定に就て（二） ……某實業家の談……

近々の中に朝鮮に於ける高利貸業者の取締法が發布さるゝさうだが什麼いふ方法の下に發布さるゝか大に見物である日本內地には高利貸取締法といふものはないが利率の制限法は定められて居る契約のあるものは百圓迄は二割百圓以上千圓以下は一割五分千圓以上は一割二分で契約のなきものツマリ民事上に屬するものは五分である而して從來朝鮮に來て居る日本人が內地に入込み朝鮮人相手に金を貸して大分高い利を貪り相當產を爲したなどの例もあるやうであるが併し今日では金融機關も多少調ふて來たから法外な高い利を出して借りるものは餘程少なくなつたらう併し高利でも低利でも凡て個人の貸借は雙方合意の上であるから外間から彼是と文句をいふ譯には行くまい尤も前に述べた如く金融機關が調つたところで已むなく高利の金を借りるやうな人には銀行では大低御免を蒙るからヤハリ個人の金を借りるだらうが之れは何れの世何れの時と雖も同じ事であるから何うにも致方がない要するに取締法なきは何うでもよいから宜ろしく官憲は總ふる方法を講じて內地の資本家を朝鮮に迎ふるやうに努めソシて資本家を安心して其の向ふところの事業（へ金貸なり質屋なり）に向つて放資せしめたならば自然競爭上利率も廉くなり從つて借手に取つても少なからず利益を得るだらう

●郵便爲替貯金概況 半島に於ける郵便爲替貯金及一般郵便事務は本年度內に全朝鮮の郡衙所在地に設置する計劃にて目下餘す所五ヶ所位に過ぎず此企劃は內地人所在地への送金及び小包等の運送を完全ならしむ點に於て最も必要を感ずる所なり、而して此擴張にて一と先づ郵便事務擴張計畫を了る次第なり、貯金事務の增加は昨年度に於て每月の口數三千臺なりしもの今年度は每月五千臺に上り爲替事務は昨年度の八万に對し口數約二万の增加にて既に十万口に達し振替貯金の方法も漸次鮮人の了解する處となり總計口座九百八十に對し十數名の鮮人加入あり郵便貯金は特別會計に屬し內地臺灣朝鮮等皆一に大藏省の貯金管理局に統轄されて從つて利子も全部一樣にて四分二厘なり、然るに朝鮮の一般銀行預金利子は六七分の邊に在りて郵便利子に比し二三分の高位にあれば甚だ朝鮮の利子に準據せざる次第なれども今直に之を高むれば內地預金者の申込增加すべく利子の同一ならざる爲に預金事務の系統に變更を來し旁々深甚熟考を要する處なり云々（遠藤爲替貯金所長談）

●朝鮮海の秋期漁況 十一月中を盛漁期となし十二月上旬を以て終了を告ぐる秋期の漁獲物は重に鰯にして全羅南道慶尙南北道江原道を以て主產地とす就中鎭海灣は例年六七十隻の漁船集り六七十万圓を得る程の好漁地なるが目下の處にては本年は例年に比ぶれば續甚だ良好ならざるも十一月の盛漁期となれば大漁なしとせず漁民等は只管其期の到るを待ちつゝあり又濟州島は例年三萬圓內外の漁獲高ありしが本年其倍額に達すべく近年稀有の豐漁にて江原道も又濟州島に亞ぐ豐漁を見日本人にして一網千圓以上の漁獲せしもの少なからざりしと

●官廳執務時間變更 十一月一日より總督府所管各官署の執務時間は每日午前十時より午後四時迄なり

●龜井前警視總監入京 前警視總監龜井英三郎氏は滿洲を視察し三十一日午前十時新義州發午後十時二十分南大門着天眞樓へ投宿の筈

●關李王職長官の北行 關李王職長官は鴨綠江架橋落成式に參列のため卅一日午前七時北行したり

●岩原謙三氏の出發 三井物產株式會社取締役岩原謙三氏は三十一日朝南大門驛を發し新義州に向ひ渡滿の途に就きたるが氏は安東縣に二三日滯在の上同地出張所の事務の狀況を視察する所あるべしと

●檜垣道長官の寄附 檜垣道長官は本年六十一歲の還曆なるを以て紀念の爲め民團立各學校奬勵費へ百圓公立普通學校奬勵費へ一百圓の寄附を三十日申出たり

●青木書記官の出張 豫て東京及北海道へ出張を命ぜられたる青木書記官は一兩日中當地出發約一ヶ月半の豫定を以て出張する由

●齋藤課長苗圃視察 齋藤山林課長は三十日午前九時當地發水原の苗圃を視察し即日歸任したり

●大庭貫一氏の入京 元平壤民長大庭貫一氏は三十日入京本町一丁目今村方に滯在十一月一日歸鄕の由なり

●鏡城炭礦の好望 咸北鏡城中村正路氏の經營に係る鏡城の中村炭礦は昨年十一月より發掘し目下十八尺層と八尺層との二層より採掘し居れるが炭質良好にして價格低廉なる爲め夏季に於ては漁大津の鹽田羅南煉瓦工場に冬季に於て軍隊各官衙商人等の需用增加して頗る好評を博しつゝありと云ふ

●水原郡の女子稻扱傳習 水原郡にては郡內に四ヶ所の女子稻扱傳習所を設け一所に鮮人女子の教師二名宛を配置し一ヶ所二十名を傳習しつゝあるが成績甚だ良好なりと云ふ

●赤十字鎭南浦總會 日本赤十字社愛國婦人會鎭南浦委員部にては去る二十二日鎭南浦府廳にて聯合總會を開催會員六百餘名參集頗る盛會を極めたり

公人　私人

▲山田義五郎（釜山稅關長）三十日浦尾旅館へ
▲宇野榮苗（春川區裁判所判事）三十日浦尾旅館へ
▲淸水源（春川區裁判所檢事）三十日同上
▲伊藤峯五郎（國民新聞記者）三十日同上
▲荻谷籌夫（朝鮮新聞社々長）三十日同上
▲佐藤潤象（韓國瓦斯取締役）三十日京城ホテルへ
▲目加田平三郎（馬山會議所副會頭）三十日金澤へ
▲前田外喜（同書記長）三十日同上
▲山谷四郎（鑛山技師）三十日不知火
▲榮常濟佐（大學院學生文學士）三十日同上
▲牧野五一郎（文部省參事官）三十日釜山行
▲岩崎虎二郎（全州農銀支配人）三十日仁川行
▲畑尾健須（やまと新聞記者）三十日釜山行
▲鈴木源之助（鮮銀新義州支配人）三十日新義州行

▲京釜兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客（三十日分） 乘車客 七一九 降車客 八二三 乘車貨金 一四九七、四四〇
▲南大門驛荷扱高（三十日分） 發送貨物 六四噸 到着 四七七 貨物金 九一〇、五五〇
▲龍山驛乘降客（三十日分） 乘車客 二三〇 降車客 二三一 乘車貨金 二〇五、二二〇
▲龍山驛荷扱高（三十日分） 發送 八噸 到着 六二 貨物貨金 一三〇、三二〇

▲京城手形交換高▼

十月卅一日 金高 二八一、六八〇、五三〇 枚數 六三八

▲茶袋▼

愈々本日は待ちに待つた鴨綠江の大鐵橋開通式が行はれる、此大鐵橋の開通は先達ても言つた通り半島南滿兩鐵道と一躍世界の公道たらしめたのである▲簡單に云へば斯うであるが、さて鐵路一過朝鮮、滿州、露西亞を經、歐州の中心に短時日の間に到着することの出來る樣になつたのは確かに現世交通界の一大變革である▲試みに南州、甲東、松菊の諸豪を地下に起し、此局面を觀せしめたなら、國事國運の發展に對し必ずや驚魂駭魄を禁じ得ないであらう▲昨今の電報によると淸國の官軍も大分勢ひが付いて來た樣だ、併し江岸の一戰で勝つたからとて未だ大勢を制することは出來ぬ▲淸國政府が資政院の決議に聽き盛宣懷を革職したのは無定見も甚だしい、元來支那の鐵道國有は盛の手で實行を見るに至つたとは云へ、素と盛の發案でなく淸政府年來の決定問題であつたのだ▲然るに人心緩和の爲とは云へ、實行者を犧牲に供せうとするは、一時を糊塗する手段として却つて盛の同情を失ふことゝなる▲況んや革命軍が鐵道國有反對を標榜したのは、名を之に藉つたに過ぎない、云はゞ機會を利用したので其目的や茲に置かれて無いのである故に盛の革職位で彼の氣勢を殺ぐといふ事は蓋し六ヶ敷いことであらう。



チャンピオン傳（三）

總督秘書官會計局長 伯爵 **兒玉秀雄君**

臺灣總督たりし人の子に生れて朝鮮總督たる人の聟となつた君は如何に[illegible]かの朝鮮總督となる運命を持つて居るやも知れぬ「總督は軍人に限る」なんて制限は上の[illegible]だから軍人たらざる故に何時までも〳〵朝鮮總督に成れぬとは限らんのだ、前途には大なる光明がある、[illegible]を見ても如何に其前途に光明があるかが分る、君の禿げ振りは大膽である思ひ切つて**瓢簞の尻**、**馬鈴薯**なぞは差し適評であらう、[illegible]は極めて趣味の人であつた如く彼れの趣味も多方面で就中碁を好く熱心なものだが此は又何の因果か殆ど下手なカラ下手、初段に井目で行けるは恥しい位[illegible]「好きこそ物の巧手なれ」の諺も此人の前には通用しない[illegible]

隱し酒のチャンピオン

[illegible]

葡萄酒の一本が定例で、白

[illegible]

だから君は葡萄酒にて辛棒せざるを得ない[illegible]丈けなら至極結構だが夫れでは[illegible]辛棒が出來ないので客の來るのを非常に歡迎して此れに托して日本酒を飲むことを樂みにして居る、併し左樣々々には客樣も無いので平常は一本の葡萄酒に滿足らしい顔をして居るのだが夫人の姿が一寸でも見えなくなると有らうことかあるまいとか伯爵の殿樣が**親ら臺所の戸棚首を突込んで何時の間**にやら來客用の一斗樽の呑み口を拔つて**片口の隅**から**キューッ**ときめ込んで「奥さんには秘密だ、好いか、若し言ふと暇を出すぞ」と脅迫する女中連も暇を出されては詰らないから默つて居る相だ（終）

●五藝妓涙の内情（二）

▽他人の娘を喰ふ人鬼

[illegible]に訴へ出たりと知り[illegible]に物なかりき[illegible]に對しての不法のみ[illegible]の醜聞露現を[illegible]告訴を取下げさ[illegible]に旅費萬端を負擔し[illegible]藝妓抱への爲め歸國[illegible]郷里名古屋へ送り[illegible]金子が十七歳の二[illegible]名古屋七軒町柳[illegible]を取りしなるが夫れは[illegible]堀内くには横濱、神戸[illegible]共謀し給仕女として[illegible]以上の給料を支給す[illegible]餘りの少女を誘拐し[illegible]たる中には現在新町[illegible]一種藝妓を勤め居る現[illegible]中西かね（二十）同町生[illegible]の兩人等もありたるなは實際給仕女と思ひ實地は大違ひにて隱せざれば虐待さ女の智慧分別も出すの客を迎ひ迎ねて居は彼等は堀内夫婦を居る事なれば本紙の堀内は樂天にての秘を訪ふて機嫌を取りの口より洩れもやせは元へ戻る、同じ思云ふは名古屋市門前を古川とせ（二三）と呼女の年期養女として百の年期養女として百伴はれたるなるが堀下しに虐待するより

幼心にも堪へ兼ね

▲縊死を謀り　しこと前後四回に及びたゞも幼兒の彼れは縊死するには細帯や手拭にて首を絞めたものとのみ考へ居りし事とて何時も發見されたるなり滑稽と云へば滑稽ならんも其心事に思ひ至れば憐れは一層なりかし

▲小金を又名古屋　生れの齋藤某の娘にして本名をつや子（二十）と云ひ十六歳の折百五十圓にて養女に貰ひ堀内家の相續人とすべしとて藝妓たることを承諾せしめ抱藝を仕込みしも物覺ら悪しく到底藝妓たる資格なきも彼の美貌なれば相當に聘す人もあり十七歳の夏東京麹町の人萩原某に見初められ落籍の相談出でしより堀内は

▲身代金八百圓　にて落籍の相談に應じしより萩原某は小金を伴れて東京に歸り着くや香蘭女學校の校長に小金のつや子が教育方一切を托して自分は米元井門本店の抱ゑなりしと斷らなくと

國に洋行したり、然るに一方堀内の妻くには昨年十二月藝妓仕込の爲め歸國したるに金子が七軒町の柳屋にて勤め居るを見て[illegible]に成つて居たるにぞ利に敏きくには金子の母に相談を持ち掛けし、肝腎の本人は既に天津、奉天等にて虐待されし事とて厭だ〳〵の一點張りにて應ずる景色も見ざりき（つゞく）

に至り元利金を計算し元金三百十圓の證書に書替へせしめ更らに同年陰七月二日右元金の利子なりと稱し元金百四十四圓の借用證書を取り更らに同年陰八月に元利金を合計して金八百圓の證書を取り同月中元金八百圓に對する證約書なりと稱し金一千百五十圓を申錫浩の手を經て中楽信より受領し貸借關係を終了せしに係らず金百四十四圓の證書が自分の手にあるを奇貨として四百四十四圓及利息請求の訴訟を提起し十一年十月十三日京城區裁判所に元金百四十四圓及利息請求の訴訟を提起し判決確定して十二月二十四日强制執行を爲し金百八十圓七十五錢を騙取し其の外類似の手段にて金二千餘圓を詐欺數人より騙取したる次第なりと

●清水席 權助の不心得

▽貯金を下して役者に

も粹樣先刻御承知の清水席の權助、小る大束に出來上つてる俠な所が氣に入つた新參に似合はず隨分線香が點くのに張合も出て勤める程に貰れる程に此頃ではモウ貯金の何程かも出來たり此調子で行けば明治五十年の博覽會迄には一萬圓は少々六箇敷か五千圓位は充分貯る譯柄と東京で清元の師匠をして居るれフクロがオイラも老る年は爭へねもので近頃ぢやア腰の痛みを覺へた位カラモウ意氣地が無くなつた夫れに娘と云やあれ前斗り女は女同志だから一日も早く歸つて孝行を盡してクンナよと何遍手紙を寄越しても貯金に夢中になつてる權助は一時の孝行より末始終孝行を盡すが眞の孝行なりと四の五のと理窟を吐して歸らうともせぬにれフクロは益々氣が氣でなく花月の勝利は清元の方の弟子なりしものから此の方へ意見をして貰ひてねと頼み越したるにぞ勝利も兼ねて師匠の娘が斯うした所に居るとは聞き知つてるので早速尋ねて行つて意見の一つもと思へど思ふに任せぬ抱へ妓の不自由さに夫れもならず據なく知人の某に言傳を賴みたる程なるが夫れでも歸らうとは云はず却つてセヽラ笑つて貯金帳の汚れるのを樂みにして居た此の程稀には保養も必要だらうと寄座の後藤劇を覗いた所不運にも一座の藤野の姿が眼に止つて放れない「二度位は」と思つて呼んで見ると頗る面白かつたので圖に乘つた結果貯金を下して終つた此頃ヤッと眼が覺め又候貯金に精出してる相なり、嗚呼不孝の報

本社主催

奉祝天長節神田祭式手古舞行列次第

一、日　十一月三日

一、人員　**中京兩券に屬する大小藝妓總出**

一、行列扮裝　草鞋穿タッチケ着用金棒火の用心携帯

一、行列道筋　行列道筋は日の出町集合地を發し順路長谷川町京城民團祝賀會場に入り更に長谷川町を下り大漢門前に出て太平町を通過して南大門外に出て引返して南大門通三丁目を民團役所前に出て本町一丁目より本町筋大和町を練り總督官邸前を倭城臺に至る

一、本社新作木遣唄

めでためでたの、てんちやうせつよ
くにはさかねて、たみはさむ
きくのさかりに、うれしきゆめの
さめりやかがやく、日のみはた
にすせんけふだい、手をとりあいて
するのすゑまで、いはいましよ

右は我が京城開闢以來未曾有の快行列にして其壯其美人目を新らたならしむるに足るものと信ぜられ候願はくは滿都の士女諸君刮目して御待ちあらんことを

十月　**京城新報社謹白**

●狡奴小栗榮吉

▽女房の慘死は天罰か

栃木縣人當時竹園町高利貸小栗榮吉が詐欺取財犯にて豫審中なりし事は既報の如くなるが該事件豫審終決して二十一日兩角檢事の手にて公判に付せられたり犯罪の事實は明治四十年月日不詳越聚書なる者の周旋に因り西部盤松坊新村洞入統三戸申楽信に對し金百圓を貸與したるが翌四十一年舊二月十四日

●珍妙な嫁入沙汰

▽女房を他人の嫁に

孝行で身を賣る女あれば其孝行を賣らうと云ふ不孝者あり自分に飽きした女房は有り作らで碌でもない他人の女房に眼を着けて出刃庖丁の脇腹を覗ふを知らざるも往々ありて今は珍らしと人も思はぬ世の中ながら茲に說き出す一齣は夫れと反對に好で貰つた女房に熨斗を付けて自分の家から友人に嫁入らすと云ふ珍無類の開化振り長命はすまじきもの情無きことを聞くもの哉と耳を蔽ひ眼を塞ぎて過ぐる人もあらんか、茲に漢城衛生會の事務員、元韓國警務總監若林賚三君の親戚なりと稱する宇曾野廣兵と言ふ者あり此男頗る付の色男なるが十年斗り前東京にて妻を迎へ琴瑟相和し此地に來りて後も睦じく暮し居りしに近頃如何にしけん其妻女を妹と僞り新へ○○○○部の武士道屋楯野某と云へるものに讓渡の情約整ひ近日宇曾野の宅より新夫楯野の家に嫁入らせる由なるが如何に女は重寶なものなればとて餘りに苦々しと媒酌人なる寶田某さへ面を顰めて居るとの噂のまゝを

●各商店の聯合賣出

京城市中の各商店は本年も例年の如く聯合賣出しを爲す由にて昨今寄り〳〵準備中なりといふ

●沖津戸十郎拘引さる

▽仁川水産會社の疑獄

原籍大阪市西區青立堀南通り三丁目九番地當時仁川海岸町二丁目漁具商仁川水産株式會社々員社計係片川傳藏（三二）山口縣阿武郡萩町三一五九番地當時仁川海岸町二丁目十七番地住仁川水産會社取締役守永安三郎（三〇）の兩名は去二十七日京城地方裁判所仁川支部檢事局の令狀執行され仁川警察署に拘引され取調中の處又々三十日午後六時仁川濱町二丁目十七番地住同社專務取締役沖津戸十郎（六〇）も同じく令狀執行され拘引せられ目下取調中なるが多分社印盗用横領罪の嫌疑ならんと云ふ

●京日理事盗難に罹る

▽金子の紛失、犯人の逮捕

櫻井町五十七番戸居住京城日報社理事兼編輯局長並川喜三郎氏より現金十圓の盗難屆に接したるより南部署は警官をして監檢せしめたるに同家雇人印人國（一七）が窃取せし事判明し逮捕取調の上檢事局に送らる

●大桝樓の菊花壇

新町遊廓大桝屋に於ては例年菊花培養に熱心にして其の都度觀客の賞賛を受けつゝありし事とて今年は特に在來の種類の外に珍花名花多數内地より取寄せ目下滿開にて庭園及大廣間に大々的菊花壇を作り當間は横門を開き隨意觀覽に供しつゝあり而して遊興客にして菊の芽を望まるゝ方には實名を控へ翌年期節に無料にて進呈する由なれば一本の芽一圓の價格ありて十本貰へば十圓となる譯なり因に床上に飾りある大鉢永樂の園錦等は見事なり

●他人の物を入質

熊本縣上益城郡矢部濱町百六十五番地當時永登浦京町居住平野あさ（三九）は十月七日永登浦仲町權藤方酌婦手島ユキより着用の爲め借り受けたる御召縮緬羅衣一枚を入質し又同居人赤星孝之助より山下金造に返却す可く依頼されたる蒲團を入質して告訴され横領罪として京城地方裁判所に於て懲役四月に處せらる

●自轉車泥棒判決

去月十七日京城本町六丁目鮮人自轉車屋より自轉車二輛を乘逃して仁川新町一丁目永井古物店に賣却せんとして取押へられたる原籍東京府下荏原郡碑衾村宮田峰三郎同三矢快一の兩名は卅一日仁川支部に於て各懲役二ヶ月に處せらる

●志士の成れの果

元一進會員裵善浩（三五）及尹聖允（四二）の二名が元一進會長李容九の無情を憤慨して亡片の骨を發掘して金十萬圓を强奪せんとしたる事件は强盗犯として裵は懲役五年に尹は三年に處せらる

●主人の時計を盗む

長谷川町二丁目下宿越中屋雇人金興頂（一六）は雇主の懷中時計を窃取し南部署に檢擧され檢事局に送らる

●季節的の窃盗

富山縣人當時京畿道警察津間組出張所工夫野田作次郎（二四）は十月二十一日午後四時同業伊三二（二二）所有の外套外一點を窃取し檢事局

●演藝だより

▲壽座　佐藤一座今一日の劇狂言は小島孤舟子作「時雨日記」全六幕六場に

▲浪花館　今一日初日の浪花節女義太夫竹本小浪一座今晩の語り物は御祝儀寶廼入船（光昇）日吉丸三段目（照花）日蓮記（小町）大功記十（歌昇）伊賀越仇討（九重）仙臺萩御殿（小浪）阿古屋三曲　惣掛合

▲壽座の富重なる役割は左の如し　藝妓小萬（松下）塚本芳之助（藤野）吉富喜情婿岸八ルイズ（藤田）たま君の母たとみ（深津）金井健作（後藤）健作友人神原（雪岡）藝妓千代香（島田）

●諸公債諸株券 現物賣買、迅速確實に御取扱可申候 秘要 宮内省御用達 京城本町三丁目 大阪野村德七代理店 田中友吉商店 電話九九三 振替(ノ)



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 千六十八番 振替口座京城十六番



代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房 電話九百四番 千六十八番 振替口座京城十六番



正價表以御申越次第進呈
瀧川銃砲火藥店
京城明治町二丁目 (電話三〇二番)

御料理 金山寺味噌 製造發賣元 京城南大門通 遠藤商店 電話九八二番

入院隨意 京城西小門通六番戸 菅醫院 電話一三二五番

時下秋冷相催候處御客樣方には益御勇剛に渉らせられ大慶此事に存候降て弊亭儀開業以來一方ならざる御贔負御引立を蒙り以御蔭日增繁榮に趣き候のみならず茲に七週年に相當致候は偏に御眷顧の賜と厚く御禮申上候扨て今回聊か內祝旁且つは御客樣方へ何かな御禮にと存じ新に內地にて撰ぬきの美妓五名を召抱ね其上數年東京及京都にて腕を鍛ひし板場をも召連れ一層入念吟味の御料理を此際特に御安値に差上げ可申候間何卒倍舊御來駕被下候て新嫁の酌に新鮮美味の調理を御賞翫あらん事を伏て奉希上候以上

會席御料理 京城旭町三丁目 開進亭 電話九一番

天長節 祝賀の清酒は頭に上らぬ二日醉のせぬ 本場灘御影町嘉納合名會社釀造の白鶴印に限る

特約店 京城本町 前田酒店 電話一三七番 田中支店 電話七六四番

革命的破天荒の安賣開始

漆器家具

今般産地と特約し優美にして堅牢なる品を撰び非常なる廉價にて販賣仕候間多少を論せず御用命の程を乞ふ
◎御旅館及御料理店用の會席膳吸物椀其他御好みの蒔繪或は印を特に書入れ多數にても短日數にて調進可仕候
◎開店の印として來る十月二十八日より十一月六日まで(向ふ十日間)左之通り景品と御買上一圓毎ニ福引券一枚を呈し候

景品の重なる物
一金蒔繪堅地會席膳 一桑西洋鏡臺
一金蒔繪會津製吸物椀 一同岐阜製吸物椀
一金火鉢 一箱火鉢 一蒔繪付文庫 一金
蒔繪付重箱 一前柿本針差 一脇息
其他色々一本も空籤なし

京城本町三丁目 漆器商 笹本商店 電話千二百八十八番

元祖 食パン 菓子パンアンパン各種
總督府各官衙御用 陸軍御用
製造小賣商 京城太平町二丁目 相川兄弟商會 (電話一八九番)
釜山富平町一丁目 相川兄弟商會支店 (電話二七六番)

銃砲自轉車修理 ▲迅速叮嚀 ▲確實に修理仕候
京城旭町一丁目度支部官舍前 瀧川銃砲修理所



●母國よりも安い●
携帶電燈 大一圓二十錢 中壹圓 小七十錢
懷中電燈 大九十錢 小七十錢
●地方へは即時小包にて發送
各種眼鏡 貴金時計 電燈一式 各屬品
販賣 京城本町一丁目郵便局前 金化堂時計舖 電話一三一八番
●大々的の勉强●

朝鮮銀行
當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
支店出張所(大坂、仁川、平壤、元山、鎭南浦、木浦、釜山、群山、馬山、城津、羅南、新義州、安東縣)
電話(壹番 貳六〇番 壹貳六番 貳六壹番 六壹貳番)
右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

常識的で實用向の記事多く加ふるに趣味無盡藏

婦人世界

拾壹月一日發行 第六卷 拾參號 一冊十五錢 五冊七十五錢 一年一圓五十錢 半年八十錢 郵稅一冊二錢 五冊分共

▲婦人の迷ひと決斷 村井弦齋
◎無鐵砲に上京する婦人の墮落 島貫
◎新形束髮の結び方 伊賀
◎婦人の聲と性質 柴田環
◎教師より母親への注意 佐々木
◎流行冬のれ支度 島雪子
◎主人に畏敬された乳母 少佐兒玉
廿餘名士の未亡人
◎私共夫婦の呼吸靜坐法 池田夫人
◎我家の買物の仕方 横河下枝
◎電話交換手の裏面 まさつき
◎私の娘の躾け方 山本夫人
◎自慢の國料理 阿部
◎婦人の失敗談 堀越
◎返事をする人とせぬ人 岸邊嘉悅
▲女學生と讀書 下田歌子

發行所 東京京橋南紺屋町十二番地 實業之日本社 振替貯金口座三二六番

鳥網 霞網 雀用 五間 四圓五十錢
同 鳩鶉用 八間 四圓
同 鴨用 十二間 四圓
地方よりの御注文は引換小包照會は往復はがきの事
京城明治町一丁目 網京商店

英國製 SWEET HOME BIRMINGHAM ENGLAND
直輸入新荷着
車體堅牢にして優美 スヰトホーム號
歐米各國自轉車直輸入商 京城本町二丁目 織居商店自轉車部 電話四八〇番(電略オ)

物理化學機械 模型標本類 體操及運動具 敎具校具一式 測量製圖機械 水彩及油繪用品一式 和洋紙帳簿一切 歐米文房具

●新案韓語栞發賣所● ●國語指南●
朝鮮京城本町三丁目 平田商店 敎育品部 用達部
電話一一五番 電信略號(ヒ又はヒラタ) 振替口座京城四六八番

文房具 和洋紙 測量器械
日本政府檢定 度量衡器特許輸入販賣所
シンサキ本店
京城本町一丁目(郵便局前) 電話長七百五番 電話長六四八番 振替口座朝鮮一五四番

効能ある溫泉
浴用効能 りようまちす、ちうぶう、しんけいつう、せんき、かつけ、らいびよう、ばいどくせいできもの、ひぜん、しつ、りんびよう、しようかち、しきゆう、ぢのいたみ、つきやくふぢゆん、せんがんかき其他皮膚病一切
外用効能 きりきず、やけど、しもやけ、ただれ、あたまがさ、ちきづ、ひぜん、はのいたみ、いんきん、たむし、ぜほ、まんせいできもの、いんきん、たむし
內用効能 ひんけつ、しんぞう、あびよう、ちようかたる、らいびよう、はいびよう、たうだん、かつけ、しんけいつう、りようまちす、せきずい、とんだう、ちゆうふう、げり、はらいたみ、病後衰弱、りんびよう、しようかち、しきう、酒のよい
旅館 浴客 貸席 鐵冷溫泉 京城長谷川町一丁目韓銀建築所北橫手(電話一四一二番)

英國セフヒールド市シーボムアンドデイキスタルド製鋼會社特約品
鑛山用 地球驚印八角鋼
道具用 同 角磨鋼
職工用 同 鑢各種
右は朝鮮一手販賣罷在候處淸鮮地石材穿鑿具製作用として最も適當の爲め至極好評を博し價格亦內地輸入品より格外廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候
和洋金物商 京城本町五丁目 釘本藤次郎本店 (電話四五番) 電信略號「ク」振替貯金口座京城二五六番

資本金五百萬圓 本店東京市日本橋區吳服町
東京建物株式會社派出所
一土地建物抵當貸附 一月賦償却建物建築
京城旭町二丁目 電話一一六八番

京城旭町一丁目 齋藤齒術所 電話一四一四番

男女口入業 京城明治町一丁目 萬年社 電話一八四四番

緩和下劑 カスカラ糖衣錠
東京三共合資會社朝鮮總代理店 仁川本町 竹田津三平

★株式會社百三十銀行京城支店 電話百九十四番 振替貯金朝鮮五十八番 一一三番
資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎
爲替取組先
畿內 大阪、神戶、兵庫、京都、西陣、堺、伏見、郡山、奈良、八木、田原本、高田、貝塚、岸和田、下市、茨木、平野、住吉、御影
東海道 津、東京、橫濱、大礒、靜岡、甲府、屋、熱田、岡崎、濱松、半田、桑名、名古、四日市、山田、松阪、千葉
東山道 彥根、大津、八幡、長濱、多治見、大垣、岐阜、中津、宇都宮、伊勢崎、長野、高崎、前橋、若松、福島、秋田、能代、土崎、青森、仙台、北方、加納
北陸道 金澤、小濱、敦賀、福井、鯖江、大聖寺、宮津、高岡、富山、伏木、新潟
山陰道 米子、境、松江、久手、太田、倉吉、鳥取
山陽道 岡山、味野、牛窓、玉島、笠岡、鞆、姫路、龍野、網干、岩見、西大寺、倉敷、高梁、尾の道、福山、府中、三原、廣島、呉、小郡、岩國、柳井、平生、防府、山口、德山、萩、長府、小月、下之關、明石、津山、阿知須
南海道 和歌山、田邊、御坊、新宮、串本、高松、坂出、豐濱、川之石、今治、西條、松山、吉田、洲本、尾道、八幡濱、宇和島、高知、德島、撫養
西海道 門司、福岡、博多、直方、飯塚、佐伯、大分、別府、臼杵、長洲、長崎、佐世保、唐津、佐賀、若津、牛津、伊萬里、久留米、熊本、鹿兒島、坪井、宮崎、八幡、小倉、中津、行橋、神崎
北海道 小樽、函館、札幌、旭川
臺灣 臺北、臺南
樺太 太泊
朝鮮 仁川、釜山、平壤、鎭南浦、元山、群山、木浦、羅州、晉州、馬山、南原、濟州、大邱、羅南、新義州、城津、開城、清國 安東縣、大田、金泉、公州、水原、全州
一般の業務精々便利取扱可申候

東京流納豆大安賣

特製 寶味噌 御料理向
味噌製造 漬物問屋 仁川本町三丁目 たからや 電話七三七番

入院隨意 京城壽町三丁目(電話三七八番) 中島醫院 院主醫學得業士 中島貞信

キ 汽船出帆廣告
十一月中
蓬島丸 舊島行 十一月一日午前八時
安東丸 海州行 十一月一日午前十時
天草丸 屯串行 十一月一日午前十三時
三省丸 海州行 十月四日午前七時
海利丸 大湖芝行 十月四日
安東丸
仁川本町四丁目 電話一七三番 七一〇
合資會社 秋田商會船舶部